



本校の歴史その26:「第4代松岡万次郎校長」

No.36 木村理事長・学院長 平成25年度公式メッセージ

(平成 25 年 5 月 12 日アップ)



松岡校長の学校葬

本校の歴史その26

「第4代松岡万次郎校長」



松岡校長



創立30年パーティ



在りし日の松岡校長40年史より



神殿竣工

- ・ 第二次世界大戦の前年、昭和19年4月30日開校記念日の前日に松岡校長は第4代目の校長として就任された。この秋から敗色濃く、学徒勤労令が発布され中学でも生徒動員が盛んとなり中学4年生、5年生にも拡大された。3月31日には大阪大空襲があった。
- ・ この松岡校長は一体どのような経歴で本校の校長に就任されたのかどこにも記述しているものがない。徹底的に調べてみるのだが分からないのである。恐らく官立の学校の校長をやられ定年退職後に本校に招聘されたと想像する。
- ・ 立派なまさに教育者然とした先生だったことは50年史、60年史を微細に読み進めて行くと分かる。従ってこの松岡時代は昭和19年から昭和37年まで続いている。何と18年の長きに亘って本校のシンボルであったのだ。
- ・ 同時期の昭和20年学校法人に宝来正信理事長がご就任された。宝来理事長はこれまた何となく昭和45年まで理事長職を継続された。25年間である。従って新制浪速高校は宝来・松岡コンビで堂々の時代を紡いで行ったのである。
- ・ 素晴らしい卓越した理事長と校長の時代は安定・平穩・すべての面で信頼に足る学校としての車の両輪を務められたのだと思う。昭和37年3月2日永眠、3月12日学校葬が催されている。しかし本校の校長は今まですべて学校葬で遇していることだけでも学校長の素晴らしさと本校の良好な風土を示していると思っている。
- ・ 40年史には以下のような文面で松岡校長を記述している。園田という英語の教員が書いたものである。”教育界にあること、実に半世紀をこえ、20年に亘る浪中浪高校長、古武士の風格、事毎に「格調高き…」を説き、民族再建を唱え経営の手腕、囲碁、漢詩、書に長じ、柔道7段、茗溪、官界、スポーツ界を風靡した、言うならば不世出の名校長とはまさに先生の事である。こと天朝に達するや藍綬褒章授与の恩命によくなり、その散華に会うや木杯を拝受する等、もう筆を擱くよりはなく、諸賢と共に永く先生の榮譽と功績を讃迎し、先考の如く祖霊殿に頼づくことと致しましょう。”

- ・ 60年史の紹介文は“教育界にあること半世紀を超え、戦乱化における本校復興への名校長、囲碁、漢詩、書に長じ、柔道7段、官界、スポーツ界を風靡した古武士的風格の方、藍綬褒章、勲五等を拝受す。生徒には「逃げ隠れすな！」と男の気概を教えられた。”とあった。
- ・ 60年史の文章は40年史の文章をそのまま持って来て幾分簡略化したものであろう。これだけで如何に立派な教育者であったかが分かる。その古武士然としたお顔付は確かに人格高潔にして品格溢れる人物であるとおうことがその顔相に出ている。
- ・ 私は松岡校長が亡くなられる昭和36年の卒業アルバムを探してお写真を見ようとしたが写真は抜き取られていた。恐らく誰かが記念史に使うために剥いで行ったものだろうが返却していないのである。こういう輩はどうしようもない人間である。ここに掲げたお写真はお亡くなりになる3年前の昭和34年のアルバムからコピーしたものである。本当に見事なお顔立ちである。
- ・ この松岡校長の時代に本校は創立30周年を迎えている。この年10月31日に神殿が竣工されている。以前の物はすでに本稿でも詳細記述しているが20年11月の神道指令により21年2月に撤去され玉出の生根神社に移されている。創立30年史はどれも作成された痕跡がないのだが60年史に宝来正信理事長が「創立30周年・所感」として一文を残されているものがあつた。
- ・ 60年史の94ページに記載されており、創設以来の歴史に触れ、末尾の部分が特に印象深い。それは以下のような文章であつた。“…今回30周年の記念として其の再建を見たのは誠に意義の深いことでやがて本校の守護神として教職員各位、生徒諸子の尊崇の的となり、日夕参拝されて大御光りを打ち仰がれることであろう。以上往時を追懐して聊か所感の一端を記し、学園の発展を祝福する次第である。”如何に神社再建が喜びであつたかが分かる。
- ・ 40周年史には松岡校長の叙勲の写真がある。50年史はこれまた出来の良い周年史だと思っているのだがこの中に松岡校長を語るところがある。矢野巖と言われる昭和20年4月入学の方なのだがこの人は松岡校長を以下のように語っているのである。“私は松岡先生の薫育に感謝しています。先生は武士道的な方で終戦当時に先生のような方に近づき得ました事を感謝しています。何時も口にされた「習い足らず」「教え足らず」のお言葉を今でも思い出されて感銘深いものがあります。
- ・ 昭和20年から昭和38年まで本校の国語の教諭であつた西田一也という先生は50年史の座談会でボクシング部に関して次のように述べている。“ボクシング部の発展は松岡先生の深い理解と努力のお蔭です。先生は子どものすることには危険なことはないと、よく言われていました。」この西田先生、ボクシング部の顧問であつた。
- ・ 一方松岡先生の厳しさをほうふつとさせる一文もこの50年史の座談会には多くある。このように座談会は語り手が短い時間での制約の中で言いたいこと、真実を語る凝縮された発言があるわけだからそれだけに面白いのである。松岡先生は特に体育祭などの行進における生徒の服装や態度には極めて厳しかったとある。私には分かるような気がするのである。